

製品安全データシート

製造者情報

会社名 : 株式会社 和光ケミカル
 住所 : 神奈川県小田原市南鴨宮 1-1-1
 担当部門 : 技術部 担当者 : 井口 金作
 電話番号 : 0465-48-8114 FAX 番号 : 0465-49-1951
 緊急連絡先 : 技術部 電話番号 : 0465-48-8114
 作成日 1996年1月27日 (2004年10月1日 改定第5版)

製品名(化学名、商品名等) スレッドコンパウンド THC-A (品番:A250)
 株式会社クボタ品番:07909-75550

物質の特定 製品の種類 : 防錆潤滑剤(エアゾール製品)
 用途 : ボルト/ナット、ネジ、配管等の潤滑
 単一・混合物の区別 : 混合物
 成分及び含有量 :

化合物名	CAS-No.	労働安全衛生法	PRTR 法	含有量 (%)
二硫化モリブデン	1317-33-5	通知対象物	指定物質 (1-346)	2.0~4.0 (Moとして)
潤滑油基油(鉱油)	64742-54-7	通知対象物	非該当	25~35
銅粉	7440-50-8	通知対象物	非該当	5~15
n-ヘプタン	142-82-5	通知対象物	非該当	35~45
金属粉(銅以外)	企業秘密の為 記載できない	非該当	非該当	企業秘密の為 記載できない
添加剤				
有機ベントナイト	68953-58-2	非該当	非該当	噴射剤
LPG				

官報公示整理番号(化審法、安衛法):必要あるものは収載済み

国連分類 : クラス 3.2(原液)、クラス 2.1(エアゾール)

危険・有害性の分類 分類の名称 : 高圧ガス(可燃性ガス)
 : 引火性液体
 危険性 : 極めて引火し易い液体で、その蒸気は空気と一定の割合で混合すると爆発性混合ガスをつくる。
 : 可燃性ガスが入っている。
 有害性 : 液体に触れると皮膚の脱脂作用があり、蒸気を吸い込むと有機溶剤中毒を起こす恐れがある。
 : 液体や蒸気に接触すると目、鼻、喉等の呼吸器官や皮膚を刺激し炎症を起こす恐れがある。
 環境影響 : 海洋汚染物質である。

応急処置 目に入った場合 : 直ちに、清浄な大量の水で最低 15 分間洗い流す。またホウ酸水などで洗浄しさらに長時間洗浄を続けること。
 : 速やかに専門医の手当てを受ける。
 皮膚に付着した場合 : 付着物を布にて素早く拭き取る。
 : 多量の水(ぬるま湯)で洗い流す。洗い流してから水と石鹼で皮膚を洗浄する。溶剤、シンナーは使用しないこと。
 : 外観に変化が見られたり、痛みがある場合には専門医の手当てを受けること。
 吸入した場合 : 蒸気を大量に吸い込んだ場合には、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し暖かく安静にする。呼吸が不規則か止まっている場合には人工呼吸を行う。
 : 嘔吐物は飲み込ませないようにし、速やかに専門医の手当てを受

		ける。
飲み込んだ場合		<ul style="list-style-type: none"> : 患者に意識のある場合は、水かぬるま湯で口を濯ぎ、コップ2~3杯の水を飲ませて、意識的に吐かせずに安静にして直ちに専門医の手当てを受けること。 : 患者に意識のない場合は、口から何も与えず安静にして速やかに専門医の手当てを受けること。 : 嘔吐物は飲み込ませないようにする。
火災の処置	使用可能消化剤	: ABC または BC 型粉末消火器
	初期対応	: 人を速やかに風上の安全な場所へ避難させ、消防署へ連絡し、火災現場へむやみに立ち入らせないこと。
	消火方法	<ul style="list-style-type: none"> : 可燃性の物を周囲から素早く取り除くこと。 : 高温にさらされる製品容器に水をかけて冷却する。但し消火を目的とした水の使用は、危険性を増すので絶対に行わないこと。 : 消火を行う場合には指定の消火器及び消火設備を使用すること。 : 初期消火を行う場合には、適切な保護具（耐熱着衣など）を着用し、風上より作業を行うこと。
漏出時の措置		<ul style="list-style-type: none"> : 作業の際には、適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。 : 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除く。 : 着火した場合に備えて適切な消火器を準備する。 : 衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。 : 揮発性液体のため、蒸気が発生するので、屋内では窓を開けるなど換気を十分に行う。
取扱い及び保管上の注意	取扱い	<ul style="list-style-type: none"> : 労働安全基準法、消防法等の関連法規に準拠して作業する。 : 皮膚、粘膜、又は着衣に触れたり、吸入したり、目に入らぬよう適切な保護具を着用する。 : 取り扱い作業では、漏溢、飛散等に注意し、蒸気発生を極力抑え、作業環境を許容濃度以下に保つこと。 : 周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。 : 火炎に向かって噴射してはならない。 : 高温の場所に置くと、容器が変形、破裂する恐れがある。 : 容器は転倒したり、落下したり、衝撃を加えたり、引きずったり等、粗暴な取り扱いをしないこと。 : 密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具をつけて作業すること。 : 静電気対策を行い、作業服や作業靴等は通電性の良いものを着用する。 : 使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。
	保管	<ul style="list-style-type: none"> : 幼児の手の届かない所に置くこと。 : 直射日光を避け、できるだけ涼しい一定の場所に保管すること。 : 火気、熱源から遠ざけて保管する。 : 40 以上になる所には置かないこと。 : 強酸や強酸化剤等との混触を避けて隔離保管すること。 : 水回りや湿気の高いところに置くと、缶が錆びて内容物が漏出、又は噴出する恐れがある。

暴露防止措置

化合物名	CAS-No.	管理濃度	ACGIH TLVs		日本産業衛生学会 TLV
			TWA	STEL	
二硫化モリブデン	1317-33-5		3 mg/m ³ (Moとして)		
潤滑油基油(鋳油)	64742-54-7		5 mg/m ³ (鋳油ミストとして)		3mg/m ³ (鋳油ミストとして)
銅粉	7440-50-8		1 mg/m ³ (銅粉として)		
n-ヘプタン	142-82-5		400 ppm (1640 mg/m ³)	500 ppm (2050 mg/m ³)	200 ppm (820 mg/m ³)

- 暴露設備対策 : 取り扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれないような設備とすること。
- 保護具 呼吸器系保護 : 密閉場所で作業する場合には、排気装置を取り付けること。
: 有機ガス用防毒、防塵マスクを着用する。
: 密閉された場所では送気マスクを着用する。
- 目の保護 : 保護眼鏡を着用する。
- 皮膚の保護 : 有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。
: 長時間にわたり取り扱う場合又は濡れる場合には、耐油性の長袖作業服を着用する。

物理/化学的性質

性状	状態	内容液	噴射剤(液化石油ガス)
性状	状態	: 粘ちょう液体	大気圧下 ガス状、圧力容器内 液状
	色調	: ブロンズ色	無色透明
	臭気	: 芳香臭	大気圧下 無臭
製品特徴	沸点	: データなし	-42.1 ~ -0.5
	融点	: データなし	-187.7 ~ -138.4
	蒸気圧	: データなし	1.275 ~ 0.278MPa (40)
	比重	: 0.92 (20)	0.55 (20)
	溶解度	: 水 不溶	水 微溶

危険性情報

製品特徴	引火点	内容液	噴射剤(液化石油ガス)
製品特徴	引火点	: -5.5	-104.4 ~ -73.8
	発火点	: データなし	405 ~ 550
	爆発限界	: 基油として(推定)	下限 1.8%
		下限 1%	上限 9.5%
		上限 7%	
反応性	条件	: 40 以上になると破裂の恐れがある。	
	反応性情報	: 強酸や強酸化剤などと混合すると化学反応して発熱や爆発の危険性がある。	
	爆発性情報	: 常温で蒸気を発散し、空気と一定の割合で混合すると爆発性混合ガスをつくる。	
	危険性情報	: 通常の条件では安定である。 : 長期間保存した場合、製品が劣化する。	

